



Title	センターだより 大阪大学大型計算機センターニュース No.29
Author(s)	
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1978, 29, p. 1-32
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65376
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

第40回 全国共同利用大型計算機センター 運用会議議事要旨

日 時 : 昭和53年2月3日(金)
場 所 : 東京大学大型計算機センター
議 事 :

I 報告事項

- (1) 各センターの現況について
- (2) 各研究会(統計項目、計算機言語、コンピュータ・ネットワーク、プログラム相談の機械化)について
- (3) 事務長会議について
- (4) 負担金検討小委員会について

II 審議事項

1. 負担金の改訂について

北海道大学、大阪大学、九州大学からそれぞれ改訂案について説明の後、引き続き負担金検討小委員会から、これらに関する検討結果について報告があり種々意見交換の後、原案どおり了承された。

2. 共用ファイルの負担金について

京都大学から、共用ファイルの負担金を改訂し、かつ、グラフィック・システムにも適用したい旨説明があった後、負担金検討小委員会から検討結果についての報告があり原案どおり了承された。

3. データ・ベース開発研究会について

東京大学石田助教授から、提案主旨説明があり、種々意見交換の結果、運用会議の下に「データ・ベース研究会」を設けることとし、大阪大学高木センター長が幹事に選出された。

4. その他

東京大学猪瀬センター長から、前々回から継続審議となっている「運用会議体系のあり方」についての発言があり、種々討議の結果、現在では当時と状況が変り、大型センターの将来計画問題との関連が生じているので、今回で審議を一旦打ちることとした。

「大阪大学大型計算機センターの利用に関する 暫定措置を定める規程」の一部改正について

本センターでは、ACOS 77 シリーズ NEAC システム 800 モデル 2 の 4 月 1 日からの正式運用に伴い、処理能力の向上に見合う負担金の引き下げを行うとともに、本文中の字句の修正も併せて行い、これに伴って「大阪大学大型計算機センターの利用に関する暫定措置を定める規程」の一部を改正しましたのでお知らせします。

なお、改正後の規程全文は次のとおりです。

大阪大学大型計算機センターの利用に関する暫定措置を定める規程

第 1 条 この規程は、大阪大学大型計算機センター（以下「センター」という。）の利用に関し必要な事項を定める。

第 2 条 センターは、学術研究のために利用することができるものとする。

第 3 条 センターを利用することのできる者は、次の各号の一に該当するものとする。

- 1 大学又は高等専門学校の教員及びこれに準ずる者
- 2 文部省所轄機関（国立学校を除く。）の研究職員
- 3 学術研究を目的とする機関で、センターの長（以下「センター長」という。）が認めたものに所属し、専ら研究に従事する者
- 4 文部省所管の科学研究費補助金の交付を受けて学術研究を行う者
- 5 前各号のほか、特にセンター長が適当と認めた者

第 4 条 センターを利用しようとする者は、研究課題ごとに所定の計算機利用申請書（以下「申請書」という。）をセンター長に提出し、その承認を受けなければならない。

- 2 前項の研究課題は、その成果が公開し得るものでなければならない。

第 5 条 センター長は、前条の申請書が適当と認めたときは、当該利用のための課題番号を与えて、これを承認するものとする。

- 2 前項の課題番号の有効期間は、1 年以内とする。ただし、当該会計年度を超えることはできないものとする。

第 6 条 センター利用につき承認された者（以下「利用者」という。）がセンターに計算依頼等をする場合は、センター長が別に定める方法によらなければならない。

第 7 条 利用者は、課題番号を当該研究課題に係る計算以外の計算のために使用し、又は他人に使用させてはならない。

第 8 条 利用者は、第 4 条に掲げる申請書の記載事項について変更を生じた場合は、速やかにセンター長に届け出なければならない。

第 9 条 利用者は、当該利用を承認された研究課題に係る計算が終了したとき、又は中止したときは、速やかにその旨をセンター長に届け出なければならない。

2 前項の場合において、利用者は当該研究課題に係る研究につきセンターを利用した結果又は経過を所定の計算機利用報告書によりセンター長に報告しなければならない。

3 前項の規程にかかわらず、センター長が必要と認めた場合は、計算機利用報告書の提出を求めることができる。

第 10 条 センター外端局を設置しようとする者は、あらかじめ所定の端局設置申請書をセンター長に提出し、その承認を受けなければならない。

2 前項により設置した端局を廃止しようとするとき、又は承認を受けた事項について変更しようとするときは、あらかじめセンター長に協議しなければならない。

3 第 1 項により設置した端局の管理は、端局設置者が行うものとする。

第 11 条 利用者は、センターを利用して行った研究の成果を論文等により公表するときは、当該論文等にセンターを利用した旨を明記しなければならない。

第 12 条 利用者は、当該利用に係る経費の一部を負担しなければならない。

第 13 条 前条利用経費の負担額は、計算の依頼 1 件ごとに、別表のとおり負担しなければならない。

第 14 条 前条の規程にかかわらず、次の各号に掲げる計算については、利用経費の負担を要しない。

1 センターの責に帰すべき誤計算があったとき

2 センターが必要とする研究開発等のため、センター長が特に承認したもの

第 15 条 利用経費の負担は、次の各号に掲げる方法によるものとする。

1 文部省所管国立学校特別会計の歳出予算の校費で負担する場合にあっては、当該予算の振替による。

2 前号以外の場合にあっては、大阪大学歳入徴収官の発する納入告知書による。

第 16 条 利用者が、この規程又はこの規程に基づく定めに違反した場合その他センターの運営に重大な支障を生ぜしめた場合には、センター長は、第 4 条の規程によりなされた利用の承認を取り消し、又は一定期間センターの利用を停止させることがある。

第 17 条 この規程に定めるもののほか、センターの利用に関し必要な事項は、センター長が定める。

附 則

この規程は、昭和 43 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この改正は、昭和47年5月17日から施行し、昭和47年5月1日から適用する。

附 則

この改正は、昭和48年5月1日から施行する。

附 則

この改正は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、昭和50年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、昭和51年12月1日から施行する。

附 則

この改正は、昭和53年4月1日から施行する。

別 表

区 分		負 担 額
バッチ処理	基 本 負 担 額	計算依頼 1 件につき 80 円とする。ただし、リモートバッチ処理については、計算依頼 1 件につき 20 円とする。
	演 算 負 担 額	CPU タイム 1 秒につき 5 円とする。ただし、計算依頼 1 件のうち 900 秒を超える部分については、1 秒につき 3 円とする。
	センター出力負担額	LP 用紙 1 頁につき 5 円、カード 1 枚につき 1 円
	リモート出力負担額	1 記録につき 0.03 円
	ファイル使用負担額	使用月ごとに、申請に基づく割当量が 50 リンクまでの部分については、1 リンクにつき 10 円とし、50 リンクを超える部分については、1 リンクにつき 20 円とする。
TSS 処理	基 本 負 担 額	計算依頼 1 件につき 20 円
	演 算 負 担 額	CPU タイム 1 秒につき 5 円
	センター出力負担額	LP 用紙 1 頁につき 5 円
	ファイル使用負担額	バッチ処理に同じ
ドラフター	使 用 負 担 額	ドラフター使用の計算依頼 1 件につき 400 円

備 考

- 1 TSS 処理においては、会話開始 (LOG-ON 手順) から会話終了 (BYE コマンド又は LOG-OFF 手順) 又はサービス中断の直前のコマンドまでを計算依頼 1 件とする。
- 2 CPU タイムに 1 秒未満の端数が生じたときは、計算依頼 1 件ごとに、これを 1 秒に切り上げるものとする。
- 3 リモート出力負担額に 1 円未満の端数が生じたときは、計算依頼 1 件ごとに、これを 1 円に切り上げるものとする。
- 4 会話型リモートバッチの場合の基本負担額は、TSS 処理及びリモートバッチ処理に係るものを加算した額とする。
- 5 大阪大学豊中地区及び中之島地区データステーションからのリモートバッチ処理に係る基本負担額は、センター処理と同様に扱い、リモート出力負担額は、1 記録につき 0.08 円に読み替えるものとする。
- 6 表中 1 記録とは、LP 用紙 1 行分相当又はカード 1 枚分の出力量を、1 リンクとは、3840 語の情報量を表わすものとする。

昭和52年度下半期のセンター状況報告

◎月別ジョブ処理状況

			10	11	12	1	2	3	合 計
オ ー プ ン	処 理 件 数		4978	6830	7168	7051	8081	5266	34396
	CPU 時間		62201	88489	92003	92149	106718	70983	512543
A	処 理 件 数		1934	2381	2562	2569	2886	1684	14016
	CPU 時間		145482	186960	213976	232817	238217	159987	1177439
B	処 理 件 数		1301	1366	1771	1601	2530	1720	10289
	CPU 時間		285956	316228	454433	368900	563425	399860	1881802
C	処 理 件 数		293	308	323	269	443	332	1968
	CPU 時間		364754	379602	388589	305365	386690	455839	2280839
暫定バッチ	処 理 件 数		234	324	497	1488	1298	574	4420
	CPU 時間		13521	4831	37325	49425	134704	36833	276639
R J E	処 理 件 数		2612	3020	3523	2916	4218	2433	18722
	CPU 時間		82838	85830	157411	183981	361412	207387	1078859
そ の 他	処 理 件 数		3018	3119	2889	2490	2768	2213	16497
	CPU 時間		82952	91899	90610	68047	50486	53214	437208
計	処 理 件 数		14370	17349	18733	18384	22224	14227	105287
	CPU 時間		1037704	1153839	1434347	1300684	2291652	1384103	8602329
TSS	N 500	会 話 数	S 5 2 . 6 . 1 1 を も っ て サ ー ビ ス を 終 了 し た 。						
		CPU 時間							
	S 700	会 話 数	2552	3042	3667	2659	3092	2431	17363
		CPU 時間	116484	111784	148133	104322	161362	99847	741932

◎ジョブ区分別平均待ち日数

	10	11	12	1	2	3	平 均
オ ー プ ン	0	0	0	0	0	0	0
A	0.039	0.062	0.054	0.209	0.125	0.140	0.188
B	0.113	0.126	0.473	0.548	0.454	0.394	0.338
C	0.356	0.517	1.154	1.579	0.974	1.385	0.964
全ジョブ	0.086	0.110	0.299	0.645	0.367	0.226	0.287

昭和52年度 計算機稼動状況

システム	NEAC	2200	モデル	700	(システム1)				記憶容量				1024 KCH				(単位 時間)				合計	平均
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3										
サービス時間	160:13	219:18	240:54	232:48	239:22	223:40	228:05	225:46	273:20	276:44	372:12	273:18	2965:40	247:08								
開発時間	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00							0:00	0:00
講習用時間	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00							0:00	0:00
準備時間	1:54	2:18	0:58	1:59	3:13	1:54	2:16	1:50	3:30	3:12	1:55	2:55	27:54	2:19							27:54	2:19
アキ時 (※)	7:05	6:40	9:05	8:06	6:47	5:54	6:46	6:16	6:47	5:27	8:53	6:01	83:47	6:58							83:47	6:58
業務時間	3:43	4:14	6:33	5:47	5:38	5:23	4:43	3:53	4:14	4:24	9:08	14:18	71:58	5:59							71:58	5:59
小計 (A)	172:55	232:30	257:30	248:40	255:00	236:51	241:50	237:45	287:51	289:47	392:08	296:32	3149:19	262:26							3149:19	262:26
保守時間 (B)	34:35	26:45	27:15	24:00	27:25	24:34	25:10	24:10	17:14	22:38	19:25	33:04	306:15	25:31							306:15	25:31
故障時間 (C)	2:25	4:00	0:00	1:15	0:15	0:00	0:00	2:10	0:00	0:00	0:00	0:53	10:58	0:54							10:58	0:54
運転時間 (A+B+C)	209:55	263:15	284:45	273:55	282:40	261:25	267:00	264:05	305:05	312:25	411:33	330:29	3466:32	288:52							3466:32	288:52
稼動率 (A-※)/(A+B+C)%	78.9	85.7	87.2	87.8	87.8	88.3	88.0	87.6	92.1	91.0	93.1	87.9	-	88.4							-	88.4
稼動可能率 (A/(A+B+C))%	82.3	88.3	90.4	90.7	90.2	90.6	90.5	90.0	94.3	92.7	95.2	89.7	-	90.8							-	90.8
運転日数 (D)	22	24	26	26	27	24	25	23	22	22	23	26	290	24							290	24
一日平均時間 (A/D)	7:51	9:41	9:54	9:33	9:26	9:52	9:40	10:20	13:05	13:10	17:02	11:24	-	10:56							-	10:56

システム	ACOS 77 システム 700 (システム2)						記憶容量 1024 KB (単位 時間)					
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月												
サービス時間	117:55	152:20	177:38	184:01	193:37	167:42	172:46	166:32	157:39	171:48	259:43	236:10
2157:51												179:49
開発時間	8:05	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	8:05
講習用時間	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	6:45	0:00	0:00	6:45
準備時間	2:20	2:05	1:18	0:38	1:57	0:49	0:49	1:11	1:23	1:09	1:18	16:20
1:21												
アキ時間	5:50	2:20	2:15	3:14	8:50	11:22	11:42	3:36	4:12	3:30	3:30	62:40
5:13												
業務時間	238:55	208:55	65:27	52:41	37:38	74:06	54:42	56:36	52:08	46:37	69:04	997:29
83:07												
小計	373:05	365:40	246:38	240:34	242:02	253:59	239:59	227:55	222:07	223:04	333:35	280:32
(A)												3249:10
保守時間	14:00	14:10	19:40	6:55	13:10	7:20	18:00	6:53	3:08	9:50	7:05	8:01
(B)												128:12
講習時間	1:55	0:00	0:00	1:10	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	3:05
(C)												0:15
運転時間	389:00	379:50	266:18	248:39	255:12	261:19	257:59	234:48	225:15	232:54	340:40	288:33
(A+B+C)												3380:27
稼働率	94.4	95.6	91.7	95.4	91.3	92.8	88.4	95.5	96.7	94.2	96.8	96.4
(A→※)/(A+B+C)%												—
稼働可能率	95.9	96.2	92.6	96.7	94.8	97.1	93.0	97.0	98.6	95.7	97.9	97.2
(A/(A+B+C))%												—
運転日数	24	29	26	26	27	24	25	23	23	23	26	302
(D)												25
一日平均時間	15:32	12:36	9:29	9:15	8:57	10:34	9:35	9:54	9:39	9:41	12:49	10:47
(A/D)												—
10:49												

システム	NEAC	2200	モデル	700	(システム3)							記憶容量				1024	KCH				(単位 時間)			
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計			平 均								
サービス時間	194:46	227:32	248:20	246:33	262:32	230:52	233:32	234:05	286:47	278:25	395:53	284:31	3123:48			260:19								
開発時間	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00			0:00								
講習用時間	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00			0:00								
準備時間	1:39	1:20	1:17	2:00	2:30	1:31	2:03	1:58	2:20	2:33	1:54	1:54	22:59			1:54								
アキ時間(※)	6:40	7:20	8:21	8:03	7:29	7:22	7:13	4:43	5:46	5:17	5:09	5:56	79:19			6:36								
業務時間	5:55	5:23	5:37	12:09	5:49	9:55	3:32	4:10	5:30	4:33	12:54	34:38	110:05			9:10								
小計(A)	209:00	241:35	263:35	268:45	278:20	249:40	246:20	244:56	300:23	290:48	415:50	326:59	3336:11			278:00								
保守時間(B)	25:35	23:10	28:55	25:00	24:45	25:10	25:15	21:14	20:22	24:24	21:15	31:26	296:31			24:42								
故障時間(C)	0:00	3:45	0:15	0:00	0:00	1:30	2:00	1:00	0:00	3:58	0:50	0:00	13:18			1:06								
運転時間(A+B+C)	234:35	268:30	292:45	293:45	303:05	276:20	273:35	267:10	320:45	319:10	437:55	358:25	3646:00			303:50								
稼働率(A→※)/(A+B+C)%	86.2	87.2	87.1	88.7	89.3	87.6	87.4	89.9	91.8	89.4	93.7	89.5	-			89.3								
稼働可能率(A/(A+B+C))%	89.0	89.9	90.0	91.4	91.8	90.3	90.0	91.6	93.6	91.1	94.9	91.2	-			91.4								
運転日数(D)	25	24	26	26	27	24	25	23	23	22	23	27	295			24								
一日平均時間(A/D)	8:21	10:03	10:08	10:20	10:18	10:24	9:51	10:38	13:03	13:13	18:04	12:06	-			11:35								

システム	NEAC	2200	モデル	500 (システム4)	記憶容量	512 KCH	(単位 時間)
月	4	5	6	合計 平均			
サービス時間	118:40	129:53	53:00	301:33	100:31		
開発時間	2:45	0:00	0:00	2:45	0:55		
講習用時間	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00		
準備時間	2:20	2:42	0:50	5:52	1:57		
アキ時間	11:25	12:45	3:25	27:35	9:11		
業務時間	9:10	10:50	4:25	24:25	8:08		
小計 (A)	144:20	156:10	61:40	362:10	120:43		
保守時間 (B)	14:35	14:30	8:15	37:20	12:26		
故障時間 (C)	0:00	2:05	0:00	2:05	0:41		
運転時間 (A+B+C)	158:55	172:45	69:55	401:35	133:51		
稼働率 $(A \rightarrow \times) / (A+B+C) \%$	83.6	83.0	83.3	—	83.3		
稼働可能率 $(A / (A+B+C)) \%$	90.8	90.4	88.2	—	90.1		
運転日数 (D)	22	24	10	56	18		
一日平均時間 (A/D)	6:33	6:30	6:10	—	6:42		

バ ッ チ 利 用 状 況 表

システム	JOB 区分	月	4 月 (%)	5 月 (%)	6 月 (%)	7 月 (%)	8 月 (%)	9 月 (%)	10 月 (%)	11 月 (%)	12 月 (%)	1 月 (%)	2 月 (%)	3 月 (%)	合 計 (%)
Ⅰ	オ ー プ ン	処理件数	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	27 (0.91)	0 (0.00)	0 (0.00)	26 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	53 (0.1)
		CPU時間	0	0	0	0	0	0	400	0	0	233	0	0	633
	A	処理件数	302 (20.98)	403 (15.09)	567 (16.18)	735 (21.69)	586 (18.97)	867 (22.28)	382 (12.90)	512 (15.71)	600 (15.97)	581 (16.9)	631 (13.8)	627 (20.6)	6799 (17.4)
		CPU時間	26,565	33,910	48,310	60,665	48,660	72,121	31,359	44,796	51,042	58,164	55,483	62,364	593,439
	B	処理件数	897 (62.77)	1,528 (57.24)	1,726 (49.27)	1,484 (43.80)	1,425 (46.14)	1,281 (32.93)	1,192 (40.28)	1,305 (40.04)	1,724 (45.88)	1,571 (45.2)	2,484 (54.6)	1,664 (54.7)	18,271 (46.8)
		CPU時間	206,545	358,855	373,755	325,254	291,321	251,885	262,008	302,660	445,709	358,164	552,161	388,939	477,656
	C	処理件数	15 (1.04)	7 (0.26)	10 (0.28)	21 (0.61)	65 (2.10)	51 (1.31)	99 (3.34)	84 (2.57)	56 (1.49)	45 (1.2)	80 (1.7)	56 (1.8)	582 (1.4)
		CPU時間	25,355	8,666	18,690	17,651	91,503	46,305	150,431	143,581	78,608	57,133	82,097	91,380	818,400
Ⅱ	リモート・バ ッ チ	処理件数	190 (13.29)	641 (24.01)	1,033 (29.48)	874 (25.79)	500 (16.19)	942 (24.21)	783 (26.46)	899 (27.58)	1,056 (28.10)	872 (25.1)	904 (19.8)	307 (10.1)	9,001 (23.08)
		CPU時間	13,647	13,466	24,935	22,109	15,257	34,091	30,949	33,941	48,208	76,406	117,430	27,815	353,448
	そ の 他	処理件数	25 (1.74)	90 (3.37)	167 (4.76)	274 (8.08)	512 (16.58)	749 (19.25)	476 (16.08)	459 (14.08)	321 (8.54)	369 (10.6)	444 (9.7)	383 (12.6)	4,269 (10.9)
		CPU時間	243	445	1,947	2,921	8,176	4,967	9,732	15,234	10,858	15,228	10,835	7,213	87,799
	計	処理件数	1,429	2,669	3,503	3,388	3,088	3,890	2,959	3,259	3,757	3,470	4,543	3,037	38,992
		CPU時間	272,355	415,342	470,637	428,600	454,917	409,369	484,879	540,212	634,425	565,328	825,006	577,711	6,078,781
	Ⅲ	暫定バッチ	処理件数	55 (12.14)	208 (9.69)	246 (13.14)	346 (11.40)	414 (10.92)	414 (8.65)	234 (5.86)	324 (7.36)	497 (10.43)	1,488 (30.1)	1,298 (21.6)	579 (15.5)
CPU時間			229	3,391	13,825	4,609	4,666	3,648	13,521	4,831	37,325	49,425	134,707	36,833	307,010
リモート・バ ッ チ		処理件数		82 (3.82)	110 (5.87)	905 (29.82)	1,371 (33.55)	1,695 (35.44)	1,829 (45.84)	2,121 (48.21)	2,467 (51.79)	2,044 (41.3)	3,314 (55.2)	2,126 (56.9)	18,064 (41.1)
		CPU時間		683	4,097	90,027	95,892	53,519	51,889	71,578	109,203	107,575	243,982	179,572	1,008,017
小 計		処理件数	396 (87.80)	1,856 (86.48)	1,515 (80.97)	1,783 (58.76)	2,003 (52.87)	2,673 (55.89)	1,927 (48.29)	1,954 (44.41)	1,799 (37.77)	1,409 (28.5)	1,391 (23.1)	1,027 (27.3)	19,733 (44.98)
	CPU時間	14,610	41,714	50,750	82,569	35,878	57,489	61,494	66,280	62,578	39,792	25,932	34,990	574,076	
Ⅳ	T S S	処理件数	451	2,146	1,871	3,034	3,788	4,782	3,990	4,399	4,763	4,941	6,003	3,732	43,870
		CPU時間	14,839	45,788	68,672	177,205	136,436	114,656	126,904	142,689	209,106	196,792	404,621	351,234	1,990,922
	オ ー プ ン	処理件数	1,314	2,762	1,852	3,055	2,891	3,164	2,552	3,042	3,667	2,659	3,092	2,431	32,481
		CPU時間	16,664	26,128	17,031	71,324	70,384	142,773	116,484	111,784	148,133	104,322	161,362	99,847	1,086,236
	A	処理件数	4,121 (74.38)	5,730 (70.58)	7,224 (74.05)	6,857 (75.13)	5,096 (63.36)	5,954 (63.88)	4,951 (66.71)	6,830 (70.46)	7,168 (70.18)	7,025 (70.4)	8,081 (69.1)	5,266 (70.6)	74,303 (69.8)
		CPU時間	52,505	69,833	91,336	93,205	66,866	78,851	61,801	88,489	92,003	91,916	106,718	70,983	964,501
	B	処理件数	1,152 (20.79)	1,914 (23.57)	1,789 (18.30)	1,404 (15.38)	1,660 (20.64)	1,501 (16.10)	1,552 (20.91)	1,869 (19.28)	1,962 (19.21)	1,982 (19.8)	2,255 (19.3)	1,057 (14.1)	20,097 (18.8)
CPU時間		87,473	125,031	126,760	103,476	127,250	129,612	114,123	142,172	162,934	174,653	182,734	97,623	1,573,841	
Ⅴ	B	処理件数	117 (2.11)	153 (1.88)	91 (0.93)	179 (1.96)	162 (2.01)	262 (2.81)	109 (1.46)	61 (0.62)	47 (0.46)	30 (0.3)	46 (0.3)	56 (0.7)	1,313 (1.2)
		CPU時間	27,447	32,569	22,982	36,230	23,205	56,248	23,948	13,568	9,354	10,736	11,264	10,920	278,471
	C	処理件数	64 (1.15)	118 (1.45)	131 (1.34)	114 (1.24)	202 (2.51)	185 (1.98)	194 (7.61)	224 (2.31)	267 (2.61)	224 (2.2)	363 (3.1)	276 (3.1)	2,362 (2.2)
		CPU時間	85,746	92,732	136,274	92,404	222,137	118,289	214,323	236,021	309,981	248,232	297,593	364,459	2,418,191
	そ の 他	処理件数	86 (1.55)	203 (2.50)	520 (5.33)	572 (6.26)	922 (11.46)	1,418 (15.21)	615 (8.28)	709 (7.31)	769 (7.53)	712 (7.1)	933 (7.9)	803 (10.7)	7,493 (7.0)
		CPU時間	569	2,637	4,687	4,627	11,443	15,156	11,726	10,385	17,174	13,027	13,719	11,011	116,161
計	処理件数	5,540	8,118	9,755	9,126	8,042	9,320	7,421	9,693	10,213	9,973	11,678	7,458	106,337	
	CPU時間	253,740	322,802	382,039	329,942	450,901	398,156	425,921	490,635	591,446	538,564	612,028	554,996	5,351,170	
Ⅵ	T S S	会 話 数	284	216	54	S 52.6.11日をもってサービスを終了した。									
		CPU時間	72,059	25,510	4,356										

(注) 1. %は、同一システム内での百分比を示す。
2. システムⅠは、NEAC2200シリーズ・モデル700。 システムⅡは、ACOSシリーズ77システム700。 システムⅢは、NEAC2200シリーズ・モデル700。
システムⅣは、NEAC2200シリーズ・モデル500。(6月末撤去)

「速報」及び「お知らせ」の集録

<速報No. 49>

I. データ・バンクの開設・利用に関する希望調査

最近の計算機利用の一つに、文献情報その他に対する情報検索や多量データ解析など多量データを対象にした処理があります。また、従来各利用者で分散管理されていた相互に強く関連したり重複しているデータを一つの組織立てられたデータの集まりとして集中管理し、これら多量の諸データをファイルに半恒久的に格納することにより多数利用者の共有財産として常時共同利用可能な状態にしようとの機運もあります。また、計算機システムの機能上も、これらの目的を達し得る状況になっております。

これら半恒久的に計算機システム上に格納されたデータには、適宜様々の呼び名が与えられております。例えば次のとおりです。

データ・ファイル：ファイル・システム中での取り扱い方法におけるプログラムに対置したデータとしての特徴による。

データ・ライブラリー：データの多数利用者による共同利用的性格による。

データ・バンク：データの貯蔵庫的取り扱いによる。

データ・ベース：データの計算機システム中での管理技術的側面による。

これらは、多くの場合同一のものに対する異なる側面からの呼び名と考えられます。したがって、ここでもこれらすべての側面を含めて広く解釈して、計算機システムに半恒久的に格納された共同利用の可能性をもつデータの集まりをデータ・バンクと呼ぶことにします。

さて、データ・バンクの内容と取り扱い方法は一般に研究分野に依存しており、また多くの場合内容の更新や保守を必要としますので、データは利用者が磁気テープやセンターのファイル装置に格納し、自ら保守・管理をしていただくのが良いと考えております。センターとしては、このようなデータ・バンクの取り扱いのためのハードウェア／ソフトウェア上の問題について検討を進めてゆきたいと考えております。

このアンケートは、本センターにおいて今後一般利用者によるデータ・バンクの作成・管理・利用を可能にするための準備に必要な検討の資料とするためのものです。ご多忙中恐れいりますが添付のアンケート用紙に記入のうえ、2月末日までに本センター一階一般受付へ提出、または共同利用掛宛郵送願います。

II. ACOS シリーズ77 NEAC システム 800（以下S800と呼ぶ）の正式運用について

昭和53年度（昭和53年4月）を期し、現在テスト運用を行っておりますS800を当センター主システムとし、これでの一本化サービスを行うこととなります。ただし、4月1日から数日

間全システムを休止して、オープン入出力装置室のカード・リーダー、ラインプリンターを N2200 モデル 700 用のものから S800 用のものへ機器交換する作業を行い、以降、本格サービスに入る予定です。又、端末移行についても 3 月下旬から本格サービス開始までの間に行う計画で、これについては、端末側と打合せのうえ移行日を決定することにしております。これに伴ない、現在の主システムである N2200 モデル 700 及び、S700 の運用サービスは原則として、4 月 1 日以降は行いませんので御留意ください。

Ⅲ. S800 正式運用時のジョブ区分と暫定運用について

速報 NO. 48 でお知らせしておりました S800 のジョブ区分が決まりましたのでお知らせします。同ジョブ区分での運用開始時期は正式運用前の 3 月上旬（テスト運用期間中）からの予定です。現在、作業等の関係で実施日までは明確でないため、S700 及び S800 でセンター出力した際の計算結果に載るお知らせ及び、センターの掲示等により後日お知らせします。

ジョブ区分は次ページの表の通りです。

なお、ジョブ区分の暫定実施時においては、正式運用時のサービス形態と以下に述べる点が異なりますので御留意ください。

- (1) デマンド・プリンティング、オープン磁気テープサービスは 5 月ないし 6 月より開始する予定です。又、カナ文字出力サービスは 4 月からです。
- (2) 入出力については、現在 S800 においてテスト的に行っておりますオープンバッチ形式と同様です。ただし、区分を指定することによってジョブのリミット値についてチェックされます。なお、当センター 2 階オープン入出力装置室において行っている、オープン・バッチ、利用者入力サービス形態は 4 月より実施します。
- (3) ドラフタージョブを S800 においても取り扱うことにいたします。磁気テープを使用しての運用は現在と同様で N2200 モデル 700 においても、今まで通りのサービスをいたしますので、ジョブ区分の暫定実施時から S800 での一括サービスになる間、ドラフター・テープは 1 日に 3 本出力されます。それぞれの図形処理イメージが、どのテープに入力されているか確認のうえ、作業を行ってください。

★0 ★1 ★2 ★3

区分	CPU 時間	メモリ・サイズ	プリント及び カード出力行数	カード出力	入 カード枚数	入 出 力	作業用ファイル	備 考
E	3 6 秒	4 8 KW (160 KB)	1800 行 (0)	不 可	2000 枚	利用 者 入 力 自 動 出 力	ディスク	オープン・ジョブ
A	6 分	6 4 KW (256 KB)	6000 (1000)	可	5000	利用 者 入 力 デマンド出 力 返 却	ディスク	カナ文字可
B	1 5 分	1 2 8 KW (512 KB)	12000 (1000)	可	5000	利用 者 入 力 デマンド出 力 返 却	ディスク	カナ文字可
C	6 0 分	1 9 2 KW (768 KB)	18000 (2000)	可	5000	利用 者 入 力 デマンド出 力 返 却	ディスク	カナ文字可
D	1 5 分	1 2 8 KW (512 KB)	12000 (1000)	可	5000	利用 者 入 力 デマンド出 力 返 却	ディスク	オープン磁気テー プジョブ カナ文字可
F	6 0 分	1 9 2 KW (768 KB)	18000 (2000)	可	5000	利用 者 入 力 デマンド出 力 返 却	ディスク	ドラフター カナ文字可

★0 ジョブカードの第2オペランドで区分を指定

★1 LIMIT 指定が最低 1 / 100 時間

★2 LIMIT カードの第2・第3オペランドの合計

★3 () 内がカード出力枚数を内数で示す。ただし、制限はプリント行数とカード出力枚数の合計。

Ⅳ. 昭和53年度利用申請の受付について

センター・ニュース NO. 28 で解説しております通り、来年度からの S800 の正式運用に伴って、これまで使用していた利用申請書一式は使用不能となり、来年度以降の取り扱い、新様式の申請書一式によって行います。旧様式による受付は行いませんので申請用紙を間違わぬよう十分御注意ください。なお、すべての申請書類を、各地区協、各連絡所に備えてありますので御利用ください。以下、取り扱い等については、下記に示す通りです。

記

- (1) 受付開始日：昭和53年2月16日（木）
- (2) 利用開始：昭和53年3月22日（水）までに申請のあった（センターに到達した）ものは、昭和53年4月より利用可能となるよう承認書を交付します。

(3) 申請書類：

- ① 大阪大学大型計算機センター利用申請書
- ② 支払責任者及び経理責任者申請書
- ③ 大阪大学大型計算機センター利用申請に係るコード表

この3申請書類は当センターを利用するにあたって必ず要るものです。今回は、すべて「新規」として行ってください。

- ④ 共同研究者申請コード表
- ⑤ ファイル申請書
- ⑥ 課題の研究補助者申請書

この3申請書類については任意です。必要とするものについて「新規」申請手続きを行ってください。なお、ファイル申請については、これまで使用していたファイルの継続使用を望まれる利用者がかなりいるものと思われるので、次項に記す「ファイル申請の取り扱い」を参照ください。

(4) その他注意事項

- ① 詳細な記入要領は、センター・ニュース NO. 28 の「利用申請の手引き」各項目に示す通りですので、よく読んで間違いのないよう行ってください。
- ② 例年、記載不備（コードの誤記入、記入もれ、印もれ）が目立ちます。申請書に不備があれば、利用申請の承認や、課題登録がおくれます。特に来年度からの登録作業は、光学文字読取り装置によるテストの処理を考えておりますので、これにかかる“大阪大学大型計算機センター利用申請に係るコード表”、“共同研究者申請コード表”の記入に際しては特に注意してください。

アンケート用紙

所属機関	大学 高専	学部	学科 研究所
氏名	TEL	内線	

A. あなたの研究分野についてご記入ください。

B. 近い将来に作成し利用に供しようと考えておられるデータ・バンクがあれば、ご回答ください。

B1. データ・バンクの主要内容について

(I) 該当するものに✓印をつけてください。

- ☐ 物理定数などのいわゆる数値データ
- ☐ 文献情報
- ☐ プログラムの集まり
- ☐ その他()

(II) 内容についての特徴をお書きください。

B2. データ・バンクを開設したい年月

昭和 ____ 年 ____ 月頃

B3. データ・バンクの作成・管理の方法についてご記入ください。

(I) 格納すべきデータについて該当するものに✓印をつけてください。

- ☐ 利用者(又は作成者)自身でデータを作成する。
- ☐ 他から無償で譲り受ける。
- ☐ 他から有償で購入する。
- ☐ その他()

(II) データ・バンクの管理システムについて該当するものに✓印をつけてください。

- ☐ 既存の汎用データ・ベース管理システムを利用したい。
- ☐ 自分でデータ・バンク管理のためのシステムをつくる。
- ☐ 単なるデータ・ファイルの水準にとどめておく。
- ☐ その他()

(III) データの保守・更新について該当するものに✓印をつけてください。

- ☐ 定期的にデータの保守・更新を続ける。
- ☐ 不定期ではあるが、データの保守・更新を続ける。

☐ データの継続的な保守・更新は行わない。

☐ その他()

B4. データ・バンクの大きさについてご回答ください。

約 メガ・バイト

バイト数が不明の場合は、大きさが推定できるようなその他の情報をお書きください。

B5. データ・バンクが利用される研究分野の範囲・領域
(予測可能ならば利用者予測人数もお書きください。)

B6. データ・バンクを設置しようとするグループ名又は、利用者名

B7. このデータ・バンクの必要性についてご記入ください。

C. もし利用可能ならば使いたいデータ・バンクがあればご回答ください。

C1. データ・バンク名(名称のないものや不明のものはデータ・バンクの内容)をお書きください。既存のデータ・バンクについては、その所在もお書きください。

C2. 上記データ・バンクを本センターで利用するならば、どのような利用形態を希望しますか。例えば“端末からの情報検索を主体とする”などとお答えください。

C3. 既存データ・バンクを本センターへ移入希望の場合には、その方法について希望をお書きください。

記入済みのアンケート用紙は2月末日までに本センター一階一般受け付けへ提出又は、共同利用掛宛郵送願います。

V. センター・ライブラリー及び、アプリケーションについて

(1) S800 のアプリケーションについて

S700 で利用可能なアプリケーション（ライブラリーも含む）はすべて S800 においても使用可能となりました。

なお、ジョブ制御言語等は S700 と同様です。

(2) センター・ライブラリーの新規登録及び NEAC2200-M700 から ACOS77-S800 への書き換えについて

新規登録

Y1 /DWBA4 原子核反応解析プログラム

上記プログラムが M700 に新しく登録されました。使用方法は、センタージョブ受け付けにて使用説明書を御覧ください。なお、登録状態とランクを下表に示します。

M700 から S800 への書き換え

C2 /RPEQ 代数方程式の根（単精度）

C2 /DRPEQ 代数方程式の根（倍精度）

C2 /ERROR 代数方程式の根の補正と誤差評価（単精度）

C2 /DERROR 代数方程式の根の補正と誤差評価（倍精度）

C2 /Q1 二次式の絶対値の小さい根をとり出す（単精度）

C2 /DQ1 二次式の絶対値の小さい根をとり出す（倍精度）

C2 /T 三次式の因数分解（単精度）

C2 /DT 三次式の因数分解（倍精度）

上記 8 個のものが S700 で使用可能となりました。登録状態とランクを表に示します。

大分類	分類コード ／サブプログラム名	項目	登録状態	M700 使用可否	S700, S800		参考資料
					使用可否	ランク	
C	C2/RPEQ	代数方程式の根（単精度）	D	○	○	2	1
	C2/DRPEQ	代数方程式の根（倍精度）	D	○	○	2	1
	C2/ERROR	代数方程式の根の補正と誤差評価（単精度）	D	○	○	2	3
	C2/DERROR	代数方程式の根の補正と誤差評価（倍精度）	D	○	○	2	3
	C2/Q1	二次式の絶対値の小さい根をとり出す（単精度）	D	○	○	2	3
	C2/DQ1	二次式の絶対値の小さい根をとり出す（倍精度）	D	○	○	2	3
	C2/T	三次式の因数分解（単精度）	D	○	○	2	3
	C2/DT	三次式の因数分解（倍精度）	D	○	○	2	3
Y	Y1/DWBA4	原子核反応解析プログラム	C	○	×		

注） 表の標記法についてはライブラリー・プログラム一覧（1977. 7）を参照。

(3) センター・ライブラリーの改訂と仕様書(1976年8月発行)の訂正について

○SDEQ1(連立常微分方程式、ルンゲ・クッタ・ジル法)の改訂

改訂前: IS = 0 のとき、不都合な点がある。

- ① きざみ H、H/2 の双方の結果が YY に混在する。
- ② X の値は、きざみ H/2 の最終値であり、きざみ H の場合と必ずしも一致しない。

改訂後: ① YY の内容は、きざみ H の場合となる。

- ② X の値は、きざみ H、H/2 双方の最終値である。

上記の改訂は 2月23日の処理分より実施いたします。23日以前に受付投入されたジョブでも、処理が23日以降の場合は改訂後のものとなりますので御注意ください。

○ライブラリー・プログラム仕様書の訂正

P. 39 サブルーチン SDEQ1

上記改訂によって使用法はわかりませんが、仕様書のミスプリントならびに表現の不適当な部分を次のように変更します。

◦入力データ

E X の最終値、 $E \geq X + H$ 。

IS IS = 0 のとき与えられたきざみ H の半分のきざみでも演算を行い、その結果を D に出力する。ただし、IS ≠ 0 のときは IS = 2 と変更されて出力される。

FUNCVL · 関数値を求めるサブルーチンの名前。SUBROUTINE SDEQ1 を引用するプログラム内において EXTERNAL 宣言をする必要がある。(以下この項変更なし)

NXMAX · YY を DIMENSION 宣言したときの第 1 添字の値。

YY (NXMAX, KK), NXMAX ≥ (E - X) / H + 1, KK ≥ N.

◦出力データ

YY きざみ H ごとの結果が入る。(以下この項変更なし)

<速報 No. 50>

I. 昭和53年度利用申請等に係る注意事項について

1. 昭和53年度利用申請は、すべて新規申請で全事項(課題番号を除く)に記入する必要があります。

今年度の課題番号等は継続できませんので、御注意ください。

2. 利用申請に係るコード表(手書き OCR用紙)は必ずHBの鉛筆を使用し、記入例に従って、ていねいに記入してください。

なお、鉛筆以外のものでは記されず読み取り不可能となり、登録作業が行えませんので御注意ください。

3. センター・ニュース NO. 28 に掲載した「利用申請の手引」への追加について

14 ページ 10 の(3)と 19 ページ 4 の(5)として次の事項を追加します。

追加 : 教官・大学院学生以外(教務員・研究生等)で研究をしている方は、その実態に応じて利用資格が判定されますので、所定の経歴書を添付してください。

ただし、新規・延長申請時のみ提出してください。

(注) 下線の追加文は 14 ページ 10 の(3)の部分にのみ追加。

II. 新しい「利用の手引き」について

S800 の正式サービス運用にともないこれまでの「利用の手引き」のうちシステムに関連する部分は使えなくなります。

それにとともに、新しい「利用の手引き」の作成に取りかかっていますが、現在のところ、昭和 53 年 5 月上旬に配布できる予定ですので御了承ください。

III. ライブラリー・プログラム仕様書(1976 年 8 月発行)の訂正について

P23 サブルーチン POW の備考 (1) の 1 に下記を追加します。

- 1 $r=1, \dots, n$ に対して、 $f(p_{r-1} + \lambda r \xi_r)$ が ξ_r 方向に対して最小になるように λr をきめ、 $P_r = P_{r-1} + \lambda r \xi_r$ とする。

このとき、linear search における $\|YS\|$ の初期値は 1 としている(YS については LMINF 参照)。

IV. S800 による正式運用の開始について

昭和 53 年 4 月 5 日(水) から次のとおり S800 1 システムで運用サービスを行います。

1. サービス時間

- (1) オープン・バッチ・サービス及び、利用者入力

月～金 10:00 ～ 16:30

土 10:00 ～ 12:00

- (2) オンラインサービス(TSS 及びリモート・バッチ)

月～金 10:00 ～ 19:00

土 10:00 ～ 12:00

- (3) 計算依頼の受付(センタージョブ受付窓口)

月～金 9:30 ～ 11:30 13:30 ～ 16:00

土 9:30 ～ 11:00

- (4) 定期保守日を毎水曜日(13:00 まで)とします。

2. サービス形態

- (1) 基本的には現 M700と同様ですが、2階オープン入出力装置室における、カード読取装置でシステムに入力する方法については、従来のような2台の装置に対しオープン用、利用者入力用といった区別はなく、すべてのジョブ区分のものが入力できます。

ただし、計算結果はジョブ区分Eクラス（従来のオープン・ジョブに当る）で依頼されたものが自動的に2階オープン入出力装置室の高速製表印字装置2台のいずれか（ディスプレイに表示されます）に出力されます。

その他は、デマンド出力サービス開始（6月の予定）までは、すべて、センター出力となり返却だに返却されます。

なお、受付番号（SNUMB 番号以下同じ）は従来と違ってシステムで自動的に生成されませんので備えつけの「\$ SNUMB カード」（Eクラスと他のジョブクラスのSNUMB カードは別となっています）を使用してください。受付番号はジョブを識別するための唯一の情報ですので同じ「\$ SNUMB カード」は、絶対に使用しないようにしてください。

おって、オープン磁気テープのサービスは5月からの予定です。

3. 連絡所、学外利用者の計算依頼

ア 豊中連絡所からの計算依頼

豊中連絡所のリモート端末（N6240）を利用する場合は豊中連絡所の利用方式に従ってください。コンテナ便を利用して計算を依頼する場合は、図の要領でカードデッキを用意し、SNUMBカードと計算依頼カードに必要事項を記入の上、連絡所受付に提出してください。

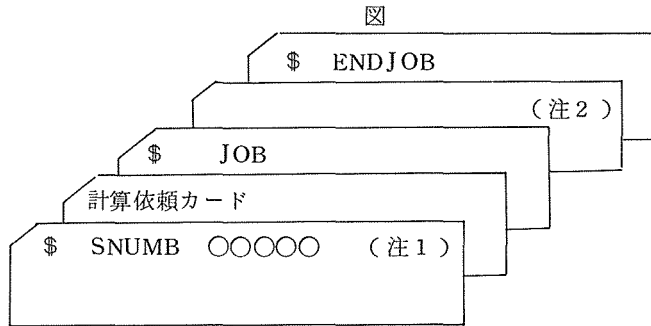
イ 豊中以外の連絡所からの計算依頼

図の要領でカードデッキを用意し、計算依頼カードに必要事項を記入のうえ、連絡所受付に提出してください。

なお、計算依頼カードの受付番号欄左端に必ずジョブ区分A, B, C, Fのいずれかを記入してください。

ウ 学外利用者の郵送による計算依頼

学外から計算依頼される時は、イと同じ要領でカードデッキ、計算依頼カードを用意し、センター宛に小包で郵送してください。



(注1) 豊中連絡所以外からの計算依頼の場合 \$ SNUMBカードは不要

(注2) 目的に応じたコントロールカード・プログラムカードを用意する。

4. ジョブ区分及び、オペランドの変更とTSSコマンドの追加について

(1) JOBカードのオペランドの変更

形式 1 8 16
 / \$ JOB 課題番号 \$ パスワード, JOB区分, 識別名, 実行レポート

ジョブ区分: E, A, B, C, D, Fのうち1つを必ず指定

(ジョブ区分表を参照)

識別名 : 計算結果の送り先を指定

“ , ”で省略

センターとめおき

“MAIL”を指定

郵送又は、連絡所送り

実行レポート: R アカウンティングレポートを出力する。

N

//

しない。

(2) BPRINT/ BPUNCHコマンド

コマンド投入後 IDENT? と端末側に出力されます。

次にジョブ区分を下記のように必ず指定します。

※ BPRINT(BPUNCH)△ファイル名

IDENT? 識別名, 実行レポート, ジョブ区分

LABELS

(注) ○ジョブ区分はA, B, Cの内1つを指定, 他のジョブ区分指定は不可。

5. 公衆網サービス

電話番号は次のとおりです。

○内線 2861 ~ 2867 (ミニプリンター無手順) — 代表番号形式

2871 (グラフィック無手順)

○外線 (06)876-3241 (ミニプリンター無手順) — 5回線の代表番号

(06)876-2479 (グラフィック無手順)

6. ドラフター・サービス

(1) ジョブ制御言語例

```

      1      8      16
      $      SNUMB      受付番号
① $      JOB      課題番号 $ パスワード, ジョブクラス
      $      LIMITS      オプション
② $      LIBRARY      LD
      $      FORTRAN      オプション
      {
      ③ { ④          } ソース・プログラム
          CALL DAPSTR(-1, NNN)
          }
          CALL DAPEND
      $      GO
⑤ $      CPROC      DAP
      $      LIMITS      オプション
          } データ
      $      ENDJOB

```

※

- ① ドラフター・ジョブ区分は F ですので必ず指定してください。
- ② ドラフターのライブラリーは LD になっています。
- ③ 従来のソース形式です。
- ④ NNN は任意のものを指定してください。(DAPSTR-NO になります)
- ⑤ 図形処理イメージ (計算結果) を収めるための制御言語です。

(2) DAPSTR-NO 控の見方

① ... 1978/04/09 ② ... TAPE = AA COPY = AA

SEQ	DAPSTR-NO	SNUMB-NO	ERRR-STATUS	COMENT-SECTION
米 001 米	NNN ... ③	× × × × × ... ④	⑤	⑥
米 002 米				

- ① ジョブが処理された日付です。各自の LIST の処理日を確認してください。
- ② そのジョブ結果が収められたテープナンバーです。
- ③ ソース・プログラム中の CALL DAPSTR(-1, NNN) の NNN で任意に指定した番号です。
- ④ そのジョブを入力した時の受付番号です。
- ⑤ システム上の入出力エラーがあった場合の表示のために使用します。
- ⑥ 3 に関連し、再計算処理等の表示に使用します。

7. その他

S800 に関する詳細な利用方法等はセンター内に掲示されますので御注意ください。

という)の変更の項にチェックし、新しい経理責任者の氏名及び、必要事項を記入、捺印のうえ申請してください。

この時、「利用申請に係るコード表」の提出も必要です。

2. 予算額の変更の場合

申請された予算額を変更したい場合には「利用申請書」、「支払責任者申請書」の変更の項にチェックし、増額の場合は増額金と旧金額の合計額、減額の場合は減額後の金額、支払責任者名と、その確認印及び、必要事項を記入、捺印のうえ申請してください。

なお、この場合には「利用申請に係るコード表」の提出は不要です。

Ⅳ. 科学研究費の取り扱いについて

負担金経費区分が科学研究費による計算機利用については、下記のとおり取り扱いますので、十分御留意のうえ利用されるようお願いいたします。

記

1. 利用申請について

科学研究費の交付があってから申請し、承認するのが原則ですが、研究者が研究計画遂行上、決定前に計算機利用が必要で、かつ利用経費負担金の支払いが立替払い等により可能な場合に限り、交付内定通知があれば、申請を受け付けます。

なお、この場合は、必ず利用申請書に内定通知書の写等を添付して利用申請に係る承認を受けてから利用願います。

2. 毎月の利用経費について

毎月ごとの負担金通知は、Ⅰ.に記載した負担金通知様式にて行いますが、各利用者におかれましても、出力結果にジョブごとの負担経費の概算を表示しておりますので、それらを活用のうえ、利用予定額を超過しないよう十分注意して御利用願います。

3. 利用期限について

科学研究費による計算機利用期限は、2月15日までとします。

Ⅴ. オープン磁気テープ・サービスの開始について

オープン磁気テープのサービスを昭和53年5月15日(月)より開始いたします。

1. オープン磁気テープジョブ

ファイルとして磁気テープを使用するジョブはすべて利用者自身で入力し、テープの操作も利用者の方に行っていただきます。

なお、オープン磁気テープジョブ区分はDクラスです。

2. 利用条件

ジョブ受付に備えてある「オープン磁気テープ予約簿」で利用時間を確保します。利用できるテープ装置は9トラック磁気テープ装置(記録密度 800/1600 BPI)2台、7トラック磁気テープ装置(記録密度 556/800 BPI)1台です。

3. 利用機器

オープン磁気テープ室には

カード・リーダー	1 台
磁気テープ装置 9トラック	2 台
7トラック	1 台
リモート・ディスプレイ	1 台

が設置されています。

4. 利用方法

利用時間になるとオープン磁気テープ室に行きカード・リーダーからジョブを入力する（カード・リーダーの横にオープン磁気テープ用 SNUMB カードが用意してあります）。入力状況ディスプレイがありませんので、デマンド室のジョブ処理状況ディスプレイ、あるいは、ジョブ処理問い合わせ装置により、状態を確認してください。ジョブが開始され、磁気テープを必要とするリモートディスプレイに取り付け指示メッセージが出力されます。

＊MEDIA-S #SSSSS-aa MNTi-cc-dd #nnnnn

(filename) @tt, ttt

SSSSS SNUMB 番号

aa アクティビティ番号

i IOM 番号（通常 0）

cc チャンネル番号（通常 16）

dd 装置番号（磁気テープの左上に表示）

nnnnn ファイルシリアル番号（\$TAPE 文の第 4 オペランド、テープをセットする時の識別用）

tt, ttt 時刻

dd の機番（磁気テープ装置の左上に表示）の装置に filename のテープをセットする。

UNLOAD スイッチを押し、前面窓を下げ、供給リールにテープを押し込み、テープの先端をエアガイドにたらす。

LOAD スイッチを押すと、オートスレディング機能が追加されていますので、自動的に巻き取られ READY 状態になります。

ジョブあるいはアクティビティが終了すると、リモート・ディスプレイに取り外しメッセージが出力されます。

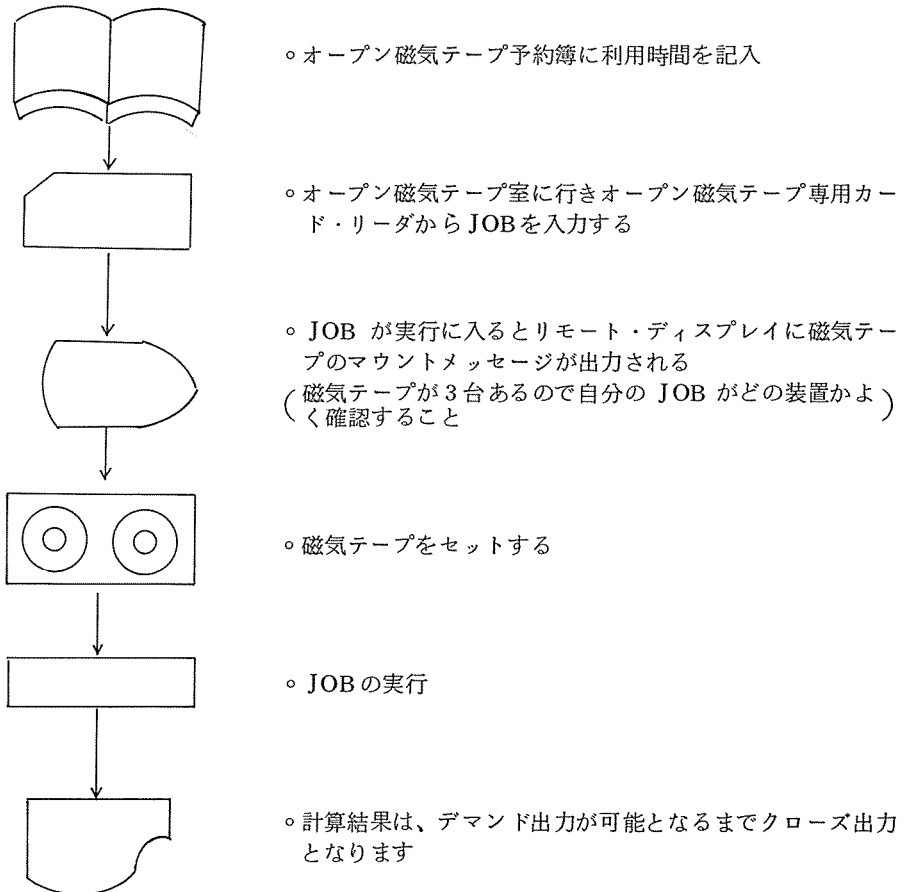
＊MEDIA-S #SSSSS-aa DMT i-cc-dd fc #nnnnn

filename tt, ttt

通常はジョブが終了すれば、テープ装置の前面窓が下りますがもし、下がらなければ、

STOP / RESET スイッチを押し前面窓を下げて取り外してください。この時、必ずジョブの終了を確認してください。

5. 手続きから出力までをフローチャートで示します。



6. 磁気テープを使用する時の JCL

7トラックテープ使用の場合

\$ TAPE7 01, XID, , 99999, , INPUT, , DEN16
 7トラック ↑ ファイルコード ↑ シリアルナンバー ↑ テープアイデント ↑ 記録密度

9トラックテープ使用の場合

\$ TAPE9 01, XID, , 99999, , INPUT, , DEN16

その他、テープのコード、入出力方法等は使用される前に一度センターへ問い合せてください。(業務掛 藤井まで)

Ⅵ. 利用者オブジェクト・プログラムの最大使用メモリ・サイズ(LIMITカードの第2・第3オペランドの指定)について

Cクラス・ジョブのメモリ制限値は、192KWとなっていますが、利用者のプログラムをメモリにロードする際には、LIMITカードの第2オペランド(メモリ・サイズ)の数値にローダ(16KW)及びSSA^(注)(2KW)を加えた値が必要となります。

1	8	16
<hr/>		
\$	LIMIT	, 192K, - 1K

第2オペランドで192Kを指定すると実質的には、200KWを要求することになります。192KW以上200KWのメモリを要求するジョブは、ハードウェア及び、ソフトウェア上の制限からメモリの最下位(HCM^(注)のすぐ次)からしかロード・実行ができません。

サービス中にHCMの次から200Kの連続領域があくことはめったにありませんので、この種のジョブに限りターンアラウンドが非常に延び、処理効率も悪くなります。従って、むやみにLIMITカードの第2オペランドに185KW以上を指定しないよう、また、プログラムを作成される場合には、なるべく184KW以下になるようにプログラミングしてください。

FORTRANプログラムでは一度実行するとメモリにロード時オブジェクト・プログラム・サイズ(×××K, IS THE MINIMUM MEMORY NEEDS TO LOAD THIS ACTIVITY)が出力されますので、次回からは、この値をLIMITカードの第2オペランドに指定してください。また、ロード時には、サブルーチン関数等を使用していなくとも、FORTRAN初期化モジュールを結合しなければならないので、ロード・テーブルを拡張する必要があり、LIMITカードの第3オペランドには最低でも-1Kの指定が必要となります。

^(注)

SSA = SLAVE SERVICE AREA の略

利用者プログラムの頭に作られ、大きさは2K語使用する周辺装置の情報やレジスタの退避等の情報を格納する。

HCM = HARD CORE MONITOR の略

オペレーティングシステム ACOS-6 の核となる部分で主記憶に常駐し、アクティビティの実行管理を行う。

Ⅶ. 電子回路解析システム(NECTAR-6 NTR80)の登録及び、DDYNAMO/F-6の変更に
ついて

1. 電子回路解析システム登録

NECTAR-6中のNTR80がリリースされました。

下記のJCLを除いては、従来のNTR20, NTR40と同じです。

1	8	16
\$	PROGRAM	RLHS, NAME/NTR 80
\$	LIMITS	mmm, 124K
\$	PRMFL	H米, R, R, NECTAR-6/NTR 80
\$	FILE	08, X8R, 44L
\$	FILE	09, X9R, 63R

2. システムダイナミックス言語の制限事項

DYNAMO/F-6 のモデルに関して従来の制限事項に加えて下記の制限事項を加えます。

ステートメント数 $\times 1.5 + C$ 方程式でボックス力に初期値を与える場合の右辺の定数の数 ≤ 1500

これはC方程式でボックス力に初期値を与える場合、それぞれの定数に対応して一つのステートメントが生成されるためです。

従来、この点の説明が不足していたため従来の制限事項の範囲内のモデルでも実行できない場合があります。

なお、上記の制限は概算によるもので、一応目安と考えてください。

DYNAMO/F-6 の制限項目中の変数900が変数1800に拡張されました。これは、従来の2倍のステップ数のモデルを処理できますので上記の制限項目もほぼ2倍と考えてください。

JCLは従来どおりです。

Ⅷ. 計算機の定期保守について

昭和53年4月5日からS800、1システムによるサービスに切り替えると同時に定期保守日を水曜日に変更しておりますが、水曜日が祝日と重なった場合は、翌日木曜日の午前中(13時まで)を定期保守日といたしますので御留意ください。

なお、定期保守日には、システムのハード的保守と利用者のファイルの保護作業を毎週交互に行いますので御了承ください。

Ⅸ. 全国共同利用大型計算機FORTRANプログラミング言語の比較表(JIS FORTRAN 水準7000を基準として)について

この比較表は、7大学大型計算機センターで、現在運用に伴っているFORTRAN言語について、JIS規格FORTRAN(水準7000)を中心に比較したものです。

7センターの主システムは、東大(HITAC 8700/8800)、北大・名大(FACOM-230)、東北大・阪大(ACOS)、京大・九大(FACOM-190)で、それぞれ、JIS、東大、京大・九大、北大・名大、東北大・阪大の区分で比較し、掲載したものです。

なお、この比較表は、プログラム相談室、デバック室に設置しておりますので、必要があれば御覧ください。

X. 研究会報文集発行について

昭和52年9月27日 に本センターにおいて開催致しました「数値計算の誤差に関する研究会」の報文集を発行いたしましたので、希望者には、本センター一階一般受付にて配付いたしますので申し出てください。

なお、数に限りがありますので、部数不足の節は御了承願います。

XI. プログラム・ライブラリへの移行登録について

次の12個のサブプログラムが、NEACシリーズ2200モデル700（以下M700という）からS800のセンター・ライブラリへ移行登録され、5月1日より使用可能となります。

各サブプログラムの使用法はM700のときと同じですが¹⁾、連立1次方程式のサブプログラムについては、エラーメッセージの出力に変更があります。詳細については、センター・ニュースNO. 30でお知らせします。

(1) S800に登録されたサブプログラム

連立1次方程式・行列式・逆行列

{ SWEEPS	{ DETES	{ INVERS
{ SWEEPDP	{ DETED	{ INVERD

固有値と固有ベクトル

{ POWERS	{ UPOWERS	{ GPOWERS
{ POWERD	{ UPOWERD	{ GPOWERD

なお、上記12個のサブプログラムのランク²⁾はいずれも2となります。

連立1次方程式に関する上記の6つのサブプログラムについて、以下のような変更と機能が追加されました。

(2) 引数 ILL の出力データ

サブプログラム内での計算結果の状況を与える引数 ILL（整数型変数）の値について、次の④の場合に変更があり、従来は正の値で出力されていたものが、絶対値は同じで負の値で出力されます。

- ① ILL = 0 : 計算が正常に行われなとき
- ② ILL = -90000 : 行列の整合寸法または次元数に関する入力データに誤りがあった
- ③ ILL > 0 : 計算結果の精度が悪いとき
- ④ ILL < 0 : 与えられた行列が特異又は擬特異のために、演算を中止したとき

(3) エラーメッセージの消去

上記の引数 ILL に、入力時に値を与えることにより、エラーメッセージの一部を消すことができます。

- ① ILL = 0 : (2)の②～④の状態が生じたときには、従来どおりのメッセージを印刷します。

- ② $ILL > 0$: (2)の③の状態が生じたとき、エラーメッセージは印刷されません。
③ $ILL < 0$: (2)の③, ④の状態が生じたとき、エラーメッセージは印刷されません。

④ 注 入力時には、 ILL の値を指定してください。

(4) 注意事項の訂正

固有値と固有ベクトルのサブプログラムの使用方法説明書の注意事項(3)に誤りがありましたので、次のように訂正します。

使用上の注意事項 : (3) サブルーチンからもどったとき、 $ILL \geq 0$ の場合には、 A の内容は保存されていない。

GPOWRS, GPOWRD にエラーメッセージを追加しましたが、詳しい内容については、センター・ニュース NO. 30でお知らせします。

- 1) 大阪大学大型計算機センター：ライブラリ・プログラム仕様書, 1976
- 2) 大阪大学大型計算機センター：ライブラリ・プログラム一覧, 1977